

2012年度第2回多摩デポ理事会

1 日 時：2012年6月26日（火） 午後6時30分から

2 場 所：八王子クリエイイトホール会議室

3 出席者：座間直壯、平山恵三、手嶋孝典、齊藤誠一

事務局：吉田光美、鬼倉正敏、矢崎省三

4 報告及び協議事項

(1) 第1号議案 会員の動向について【報告】（吉田）

前回事務局会議以降入会 賛助会員2名

→2012年度（4月～）

新入会員 正会員3名 賛助会員3名

退会 賛助会員1名

※6/9時点で 正会員103名 3団体、賛助会員44名 2団体、計152名・団体

※会費納入状況 納入済101、未納51、納入率66%

(2) 第2号議案 多摩デポブックレットの売り上げ状況について【報告】（吉田）

・5月末現在事務局在庫+けやき在庫/印刷部数(けやき預け)

① 59+65/1000(450) ② 146+65/1000(300) ③ 312+47/1400(300)

④ 399+55/1200(300) ⑤ 207+70/1000(400) ⑥ 401+27/1000(350)

⑦ 523+299/1000(300)

・総会での売り上げ 合計9冊(①2冊、②1冊、③2冊、④1冊、⑤2冊、⑥1冊)

・第7号

納入が1週間遅れて総会には間に合わず5/28になった。

タイトル『多摩を歩いて三七年半 ～街・人・暮らし・そして図書館～』

元アサヒタウンズ記者 山田優子 (1,000部 52ページ 税込630円)

→6/7会員(正・賛助)送付、国会図書館・日図協資料室納本済み

※会員へは通常総会報告に同封して送付

(3) 第3号議案 図書館資料の里親探しについて【報告】（吉田）

前回事務局会議以降は申込なし

※寄贈全集について相談1件あり→寄贈が取りやめになり申込に至らず

→2012年度（4月～） 成立51冊 未成立2冊 不成立54冊

(4) 第4号議案 通常総会の報告について【報告】（齊藤・吉田）

出席21、委任状48、合計69で成立(定足数53)

議事録作成、議事録署名人による署名済み

会員用報告作成済み→6/7送付済み(ブックレット7号同封)

(5) 第5号議案 陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(二期)について【報告】（吉田）

別紙参照

(6) 第6号議案 都立図書館・館長会の動きについて【報告】（吉田）

都立図書館を考える会陳情6月4日午後文教委員会で審理 24第29号 24第30号

新都立多摩図書館建設における都立図書館の資料保存機能の充実に関する陳情

受理平成 24 年 3 月 21 日 付託平成 24 年 3 月 29 日 結果 HP 未公表(1 か月後に公表)
※願意 1 は、共産、生活者ネットが採択、他は不採択。願意 2 は、共産、生活者ネットが採
択、民主が趣旨採択。その結果、願意 1、2 の一括審議なので継続審議になったとの情
報あり。

(7) 第 7 号議案 2012 年度通常総会の後処理について【協議】

- ・ パネルディスカッションのテープ起こしをして、ブックレットとして発行するかを検討する。
- ・ それぞれのパネリストの持ち時間が短く、当日の発表内容では、すべての主張をカバーでき
ていないため、テープを起しても中途半端なものになる。それぞれのパネリストに原稿依頼
をして書いてもらうことにする。
- ・ これまでの経過が語られているので、資料も付け、将来使えるものにすべきである。
- ・ ブックレットとは切り離して、資料集のような形で出す方法もあるが、多くの人に見てもら
うためには、ブックレット化がよいだろう。
- ・ 上記の意見を踏まえ、どのような形で発行可能かを事務局で検討することとなる。

(8) 第 8 号議案 横断検索重複検索作業の候補自治体について【協議】

- ・ 今年度についても、横断検索重複検索作業を行うこととなる。可能性があると思われる自治体
(東大和市、西東京市、国分寺市等)を調査し、具体的な対応を考えることとなる。

(9) 第 9 号議案 多摩デポ講座、研修会について【協議】

- ・ 今年度計画
8 月初第 14 回講座、12 月第 15 回講座(見学会)、2 月第 16 回講座の予定。
- ・ 第 14 回講座
現在、日外アソシエーツの星氏に打診済み。電子書籍の現状と今後、そしてバーチャルな
保存図書館の可能性について講演を依頼(6 月 21 日依頼済み)、7 月下旬から8月上旬の日
曜日を予定している。チラシ等については、講演者と至急打ち合わせを行い、多摩デポ通信
発行と同時に送付する。
- ・ 除籍と資料保存の研修会について
9 月を予定してしたが、今から 9 月開催は無理であり、余裕をもって 12 月に開催する方向
で検討する。いくつかの市に事例発表をしてもらい状況を把握するとともに、自治体間の情
報交換と交流の機会を提供できるとよい。「探しています」の本の保存や市民リサイクルが
行われるようになってきた経過など、新しい職員は知らないと思われるので、そういったこ
との継承もできるとよい。

(10) 第 10 号議案 図書館総合展のポスターセッション参加について【協議】

- ・ 7/20 申込締切→申込み。ただし発表は場所等の理由で効果が期待できないため行わない。

(11) 第 11 号議案 V-depoTAMA の今後について【協議】

- ・ まず多摩デポ講座で対応を図る。

(12) 第 12 号議案 メーリングリストの開設について【協議】

- ・ 名簿のアドレスを整理して準備しておき、次回通信(7 月)送付時にお知らせしてスタートす
る方向で準備中する。
- ・ メーリングリストの意義や使用上の注意点やエチケットをきちっと会員に知らせてもらいた
い。

(13) 第 13 号議案 多摩デポブックレット第 8 号(青木睦氏)について【協議】

- ・第8号（国文学研究資料館青木睦さんの講演）テープ起こし中。
- ・進行計画
～6月末テープ起こし～7/17～30 著者原稿チェック～8月前半原稿確認、著者入校確
～8/20 けやき入校～9/14～21 著者最終確認～9/24 印刷所渡し 10/20 納品

(14) 第14号議案 多摩デポ通信 23号について【協議】

- ・7月初めに発行したい。担当の堀さんと連絡を取って進める。
- ・内容は、総会・パネルディスカッション報告、陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動第2期報告、堀さんの旅行記（書庫訪問番外編船の中の図書館も?）、多摩デポ講座のお知らせ
- ・メーリングリストの開始と使用方法に関してのお知らせを別途作り、配布する。
- ・第14回多摩デポ講座のチラシを別途作り、配布する。

(15) 第15号議案 陸前高田支援の今後について【協議】

- ・第二期の支援活動については、第5号議案で報告済み。
- ・第三期以降の支援活動に向けて岩手県立図書館が調整中。当面その結果や図書館の状況を見守る。

(16) 情報交換

- ・ホームページの充実について
デポの活動を的確にHP上で蓄積していくことと、その活動を多くの人々に広く伝え、理解と協力を求めていくことへの取り組みを強化すべきである。そのためには、HPの充実が必要であり、写真や記事の提供の仕組みや掲載記事の判断権限の確認などを整理する。また過去の活動内容や古い資料も見られるようにしてもらいたい。事務局として検討して対応を考えることとなる。
- ・事務局体制の再編
事務局体制の再編を考える。現状では、特定の人への負担が大きく、その改善が必要となっている。事務局の中で複数人による分担制を考えており、今後も検討を加えていく。

★ 次回の理事会	8月20日（月）	午後6時半	八王子クリエイトホール会議室
☆ 次回の事務局会議	7月 7日（土）	午後6時半	調布たづくり6番テーブル

議事録署名人： 手嶋孝典

議事録署名人： 齊藤誠一

陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第二期)

- 実施日** 2012年6月3日(日)～5日(火)(3日間)
- 作業場所** 岩手県立博物館
- 参加者** 岩手県立図書館(延べ6名)・日本図書館協会(延べ36名)・盛岡大学(延べ3名)・岩手県立博物館(延べ2名)・国立国会図書館(延べ3名)
計:延べ50名
※日本図書館協会
資料保存委員会(延べ3名)
Help-Toshokan 図書館支援隊(延べ33名)
東日本大震災修理ボランティア(延べ24名)
多摩デポ(延べ9名)
- 作業対象** 3月に実施した第一期活動に全壊した図書館から救出した郷土資料(図書・青焼図面類約500点・壁新聞10点・写真1箱)のうち、寄贈や購入での再入手が困難な259点(図書227点・青焼図面類32点※岩手県立図書館作成リストはNo.260までであるが、1点は重複資料でありどこかの段階で廃棄された模様)と壁新聞10点148枚・写真・ネガ1箱
- 作業内容**
 - ①資料の仕分け(応急処置をするものと廃棄するものに分別)
 - ②応急処置(乾燥・殺菌・ドライクリーニング)
 - ③リスト照合・番号付与(リスト番号を付した短冊を資料に挟む)
 - ④一時保管用の段ボール箱に収納
- 作業結果**
 - ・図書170冊(乾燥・殺菌・ドライクリーニング・リスト照合・番号付与)作業終了
※うち5冊は乾燥中だが一応終了
→複製作成検討
→複製後、現物保存(保存容器に収納)とさらに手当てするものについて検討
 - ・図書57冊
→廃棄
→国会図書館が研究用に引取
 - ・青焼図面類32点(ドライクリーニング・リスト照合)作業終了
→複製作成検討
→複製後、現物は保存容器(青焼は光とアルカリに弱いので、ノンバッファ紙製のものを 選ぶ)に収納して保存
 - ・壁新聞10点(台紙から写真148枚をはがし封筒収納・リスト照合)
※写真、台紙ともドライクリーニング済。台紙に記された情報は、該当箇所を切り取り、写真を収納した封筒に同封した
→写真148枚陸前高田教育委員会確認、選別待ち
 - ・写真1箱(紙焼写真・ネガ、枚数不明)
→陸前高田教育委員会確認、選別待ち

●覚え書き

○作業結果

- ・状態が著しく悪いもの、県内所蔵が確認できたもの等 57 冊を廃棄することとした。廃棄対象資料は、被災資料の救済手法についての調査研究用として国立国会図書館・日本図書館協会資料保存委員会が譲り受けた。
- ・残る冊子約 170 冊について、乾燥、殺菌、ドライクリーニング、リスト照合、番号付与を行った（5 冊は乾燥が間に合わず県立図書館に預けた）。修復等の手当を今後さらに行う場合に備え、修復作業の難易度別に資料を 3 段階（軽・中・重）に分別して、段ボール 6 箱に分けて収納した（可能であれば、次期計画の際に、資料番号を記した短冊とリストに各資料の作業難易度を追記しておきたい）。この 6 箱は、次期計画が確定するまで県立博物館の冷凍庫で保管していただく。
- ・青焼図面 32 点はドライクリーニング、リスト照合まで完了した。次期計画確定まで、県立図書館で保管していただく。（→岩手県立図書館が対応）
- ・台紙貼付写真は台紙から外し、表面の泥汚れを落とした。台紙ごとに写真をまとめて封筒に収納し、リスト照合を行った。次期計画確定まで、県立図書館で保管していただく。（→岩手県立図書館が対応）
- ・期間中に乾燥が終わらなかった資料 5 点は、乾くのを待って冷凍庫に先に入っている資料と合流させる。（→岩手県立図書館が対応）

○今後の予定

- ・リスト照合まで完了した冊子と青焼図面全点については、盛岡大学と富士大学が中心に進める岩手 5 大学コンソーシアムの図書館プロジェクトが複写あるいはデジタル撮影を行い、簡易製本による複製物作製をしていただける可能性が高い。図書館プロジェクトからの正式回答を待ち、（→岩手県立図書館が対応）陸前高田市立図書館郷土資料救済支援活動(第三期)として上記の複製物作製を進められるよう、仕様や実施体制等を検討する。
- ・複製物作製後の現物資料は、①今回行った応急処置までにとどめ、保存容器（費用負担は今後検討）収納して保管するものの他に、②さらに手当てして現物そのものも利用できる状態にする必要のあるものに二分されると考えられる。②の資料に対して実際に修復等の手当を行うかどうかは、資料価値、特性（複製物では再現しきれない情報が多数含まれるもの等?）、作業難易度等を勘案して決定する必要がある。手当を行う資料が確定したら、具体的な作業の主体、実施時期等の検討を行う。
- ・応急処置の済んだ台紙貼付写真と手付かずの写真 1 箱は、現物保存の可否を陸高教育委員会にまず確認し（→岩手県立図書館が対応）、必要なものを選別する。選別した写真に対する処置方法を専門家等に照会し、作業詳細（主体、時期など）を検討する。

○複製について

大半を占める陸前高田市発行図書以外については、複製作成後に現物も残して合わせて利用に供するとなると、保存のための複製の範囲を超えるので、著作権の問題が出てくる。

市民団体の発行物は OK いただけると思われるが、著作権者の所在を確認し（被災状況を考えると、難

しい場合があるかもしれない) 許諾を得る必要について、陸前高田市教育委員会にお話しする。(→岩手県立図書館が対応)

○参加者の感想

- ・第一期は非常に「重たい」作業であったが、今回は明るい環境で作業ができ、方向も見えて安堵した。
- ・ふだんの修理は1冊の本にこれほどの時間をかけることができない。いろいろ学ぶことができた。
- ・普通では考えられない状態の資料に出会うたび、一体どんな目に遭ったのかと息をのんだ。
- ・海水・泥水に対する無力さを感じ、辛い気持ちになったこともあった。そんなときは技術指導者や他の参加者の助言や励ましが大きな力になった。
- ・県立図書館の担当者が最後の挨拶で涙ぐまれたとき、ここに至るまで、また、この先の道のりを想って、私も目頭が熱くなった。あつという間だったが密度の濃い3日間だった。
- ・地域のことを記した資料は大事であると思った。
- ・レスキュー活動を行うだけでなく、岩手のことを知ることができた。
- ・岩手県立図書館の見学もさせてもらい、特にバックヤードを見たことで県立図書館の大変さがわかった。

など